

令和5年度 浜松市立南陽中学校 学校評価報告書

1、本年度の取組み

【学校教育目標】
夢と希望に向かって、共に自立できる生徒

【目指す生徒の姿】
1、授業、家庭学習に粘り強く取り組み、社会を生き抜く資質をはぐくむ生徒
2、人から信頼され、思いやりと感謝の心をもった生徒
3、互いに磨き合い、切磋琢磨できる生徒

【目指す学校像】
1、生徒が「安心して生活」、「夢をもち、頑張れる」学校
2、保護者に対して、信頼の絆でつなぐ学校
3、明るく元気な職員集団

2、自己評価

【生徒の評価】

私は理想とする生き方や、やりたい仕事をもっている。	81.3%
私は、まわりの人と良さを認め合える良い関係を築いている。	89.0%
私は、自分が決めた目標に対してあきらめずに努力する。	72.9%
私は、自分の学校や地域がよりよくなるように、考えて行動している。	67.2%
私は、自分の得手(得意分野)を伸ばすように努力している。	89.2%
私は、いじめ・暴力・授業妨害はしていない。	93.5%
私は、南陽中学校が好きだ	84.2%
先生は、よくわかるように勉強を教えてくれる。	88.5%
私は、睡眠(すいみん)時間を十分とっている。	70.6%
私は、毎日、朝食をとって学校に登校している。	90.7%
私は、すすんであいさつをするように心がけている。	88.7%
私は、周囲の人に思いやりや感謝の気持ちをもって生活をしている。	93.2%
私は、素直な気持ちで「ごめんなさい」が言える。	90.7%
私は、正しい判断を心がけ、時や場を考えて行動するようにしている。	92.8%
私は、目上の方や地域の方に対し礼儀正しく接するよう心がけている。	95.1%
南陽中は、だれもが安心して生活することのできる学校だ。	81.0%
南陽中の生徒として誇りを持っている。	83.5%
学校の中に悩みを相談したり助け合ったりできる友達がいる。	88.7%
学校に悩みを相談したり、気軽に話ができたりする先生がいる。	70.6%
家庭で学習(予習・復習など)をする習慣が身についている方だ。	54.4%

【保護者の評価】

学校では、基礎的な学力が身につくような分かりやすい授業をしている。	67.1%
学校は、子供の興味や意欲を高める授業になるよう工夫している。	62.8%
学校は、子供に応じた学習の手助けを行っている。	52.5%
学校は、生徒一人一人を理解し、大切にしている。	73.2%
学校は、いじめのない学校、学級、集団作りに取り組んでいる。	76.8%
学校は、子供に命を大切にす心や、社会のルールを守る態度を教えている。	80.6%
学校は、三者面談や教育相談などが充実し、相談しやすい。	79.3%
学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している。	73.2%
学校は、たよりやホームページ、その他の方法で情報をよく発信している。	82.9%
学校は、子供の安全確保や健康管理のための取り組みを十分行っている。	85.5%
子供は、南陽中へ通うことが楽しそうだ。	83.4%
子供は、家庭で学習する習慣が定着している。	52.0%
子供は、定期テストに向けて家庭学習に前向きに取り組んでいた。	64.2%
子供は、ゲームやTV、漫画に時間をとられすぎではないと思う。	41.6%
子供は、部活動に目標をもって意欲的に取り組んでいる。	75.5%
子供は、悩み事や相談事を気軽に話せる友達がいるようだ。	74.7%
家庭では、子供のインターネットやメールなどの使用について約束を設定している。	73.5%
家庭では、学校や友達のことなどよく会話をしている。	88.8%
家庭では、できる限り、親子(家族)でいっしょに食事をするようにしている。	93.1%
家庭では、仕事・生き方、将来の夢などについて話したり、子どもの考えを聞いたりしている。	84.4%

【教職員の評価】

- ・SHR や朝の時間が短縮されたことで、ゆとりが生まれた。一方で生徒に語りかける時間が減ったことにより、生徒に向き合うためのスキルが低下することが懸念された。
- ・学活の時間を昨年度よりも確実に確保し、キャリアパスポートを利用したことで生徒自身が行事における成長を感じることができ、振り返る時間が増えた。
- ・行事で校歌を歌う場面を意図的に増やした。校歌を歌える生徒が増え、学校という居場所を感じられるようになり、行事に、積極的に参加することができるようになった。
- ・「しおさい」(予定帳)での生徒と担任のやりとりやいじめアンケートを実施することで、いじめに対する教員のアンテナが高くなり、しっかりと生徒を理解することにつながった。

3、学校関係者評価

- ・生徒の自ら学ぶ姿勢や学習支援に対して、家庭や学校での役割を考えたい。
- ・学校教育目標や学校運営の基本方針について理解を深め、分からないことは話し合い、協議会として共通理解を図ることができた。先生方が明るく元気な職員集団で、生徒一人一人に真摯に向き合っていて下さっている。
- ・地域との連携について活発な話し合いができた。部活動の地域移行に向けての取り組みについても、指導者の確保など課題は多くあるが、前向きな話し合いをすることができた。他校と合同で活動することも考えていくことも必要である。
- ・文化発表会や体育大会を参観し、全校生徒の生き生きとした様子や落ち着いた雰囲気が見られた。指導に感謝し、更なる生徒の成長を願っていききたい。
- ・学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚、実践し、それらが相互に繋がり協働しながら子供たちを育てていきたい。

4、学校関係者評価を受けて(今後の改善方策)

- ・家庭での学習習慣が身に付いていないため、適度な課題を設定させ自ら取り組む姿勢を身に付けさせたい。学習方法を生徒同士で互いに紹介し合うなど、学習の方法を考えさせる時間を確保し、意識を高めさせるしかけをしていきたい。
- ・生徒と教員の関係は良好である。アンケート等を利用して、情報を収集し、いじめの早期発見につなげるだけでなく、生徒と向き合い、話を聞く姿勢を徹底させていきたい。また、語り、伝えるということを研修などで高めていきたい。
- ・部活動、行事だけでなく夢中になれる場、自分を高められる場を見出していきたい。
- ・職場体験や進学における面接指導など地域とより連携したものになるよう連絡を密にしていきたい。

